

著者紹介

石井 啓一郎 (いしい けいいちろう)

1963年生まれ。翻訳家・独立研究者。ペルシア語／トルコ語／アゼルバイジャン語現代文学。訳書にN・ヒクメット『ナズム・ヒクメット詩選 タランタ・バブへの手紙』(2022年、大同生命国際文化基金)、S・ヘダーヤト『サーデグ・ヘダーヤト短篇集』(2007年、慧文社)、N・ヒクメット『フェルハドとシリン』(2002年、慧文社)、S・ヘダーヤト『生埋め ある狂人の手配より』(国書刊行会、2001年)など。

OII

[編者]

岡 真理 (おか まり)

1960年生まれ。京都大学大学院人間・環境学研究科教授。現代アラブ文学／パレスチナ問題。著書に、『ガザに地下鉄が走る日』(みすず書房、2018年)、『アラブ 祈りとしての文学』(みすず書房、2008年／新装版2015年)、『棗椰子の木陰で 第三世界フェミニズムと文学の力』(青土社、2006年、新書版、2020年)など。訳書に、ターハル・ベン＝ジェルーン『火によって』(仏語、以文社、2012年)ほか。中東現代文学研究会代表。科研基盤研究(A)「トランスナショナル時代の人間と「祖国」の関係性をめぐる人文学的、領域横断的研究」代表。